

「久志小・中学校の島口劇伝承活動の取組」

1 学校名

宇検村立久志小・中学校

2 学年・人数

小学1年生から中学3年生（計20人）

3 日時・場所

(1) 練習の日時・場所

令和5年10月の1か月間 総合的な学習の時間（本校体育館）

令和5年10月25日（水） 発表会のリハーサル（本校体育館）

(2) 発表の日時・場所

令和5年10月29日（日） 文化祭（本校体育館）

4 伝承・活用に取り組んでいる郷土芸能、伝統行事について

(1) 名称

島口劇（しまぐちげき）

今年度のタイトル「持続可能な開発目標って何？」

(2) 由来

奄美大島の方言を子供が大切にし、受け継いでいけるよう、島口による劇の学習を毎年行っている。今年度は子供の生活に身近な海洋ごみによる環境汚染の話題から、SDGs（エス・ディー・ジーズ）へと話題を拡げて、17の目標の価値を語り合った。

(3) 構成等

宇検村に住む児童生徒や教師、奄美に伝わる妖怪ケンムン、SDGsの妖精などを子供が演じた。劇の内容を伝えるナレーターは、小学校中学年から、中学生を中心に行った。

5 保存会や地域との連携の具体

身近な環境問題に関する情報を保護者や地域の方々から伺ったり、劇を演じる上での衣装や小道具作りを協力していただいたりした。

6 文化財伝承・活用の取組の工夫した点

小中併設校ということで、小学1年生から中学2年生までの子供がSDGsについて学び、ともに島口劇に取り組むため、発達段階や各実態に応じた指導を行った。具体的に、小学生にはSDGsの中で主に「海の豊かさを守ろう」や、「住み続けられるまちづくり」を、中学生にはそれらとともに「質の高い教育をみんなに」や「パートナーシップで目標を達成しよう」等も含めた内容まで、学習を通して伝えることとした。

7 取組の様子（練習状況、発表の場等）



【文化祭での島口劇「持続可能な開発目標って何？」の様子：令和5年10月29日】

8 参加児童生徒・保護者・保存会・教職員等の感想・意見

【中学1年生生徒】

- ・ 今回の島口劇を通して感じたことは、「協力が大事」ということだ。協力がなければ、あれほど全員で達成感の味わえる劇はできなかったと思う。今後も全員で環境問題についてできることから始めていきたい。
- ・ 友達と協力して練習に毎日取り組んだり、当日も大勢の人たちが応援してくれたりしたことで、とてもよい劇ができたことをうれしく感じた。

【教職員】

文化祭で取り上げた内容を子供たちがそれぞれの発達段階で理解をして、ともに環境などのSDGsについて考えることができた。取組を通して、奄美をはじめとする日本の豊かな自然や平和のありがたさに教児ともに改めて気付くことができたと同時に、本校全体の団結力が高まったと感じる。

【地域の方々】

- ・ 毎年「島口劇」に取り組んだり、学校でも方言を使った放送等を実施したりするなど、子供たちが方言にふれる機会を作っていただいていることをありがたく思った。
- ・ SDGsのことを大変分かりやすく伝えてくれてありがとう。環境問題を含め、2030年までの目標に対し、大人も子供もできることを頑張ろう。